

都道府県インフルエンザワクチン担当者会議
資料

平成17年9月6日（火）

厚生労働省医薬食品局血液対策課

都道府県インフルエンザワクチン担当者会議

平成17年9月6日(火)
14:30~16:30
中央合同庁舎5号館低層棟2階講堂

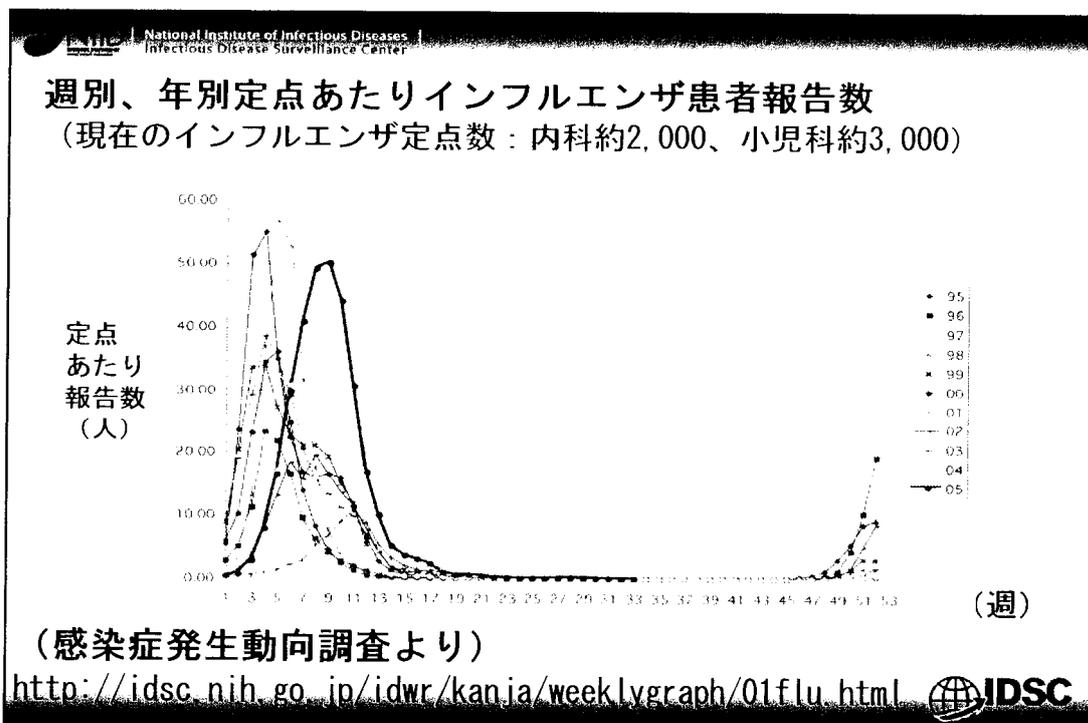
- | | | | | |
|---|--------------------------|---------------------|---------------|---------------|
| 1 | 開 会 | | | 14:30 |
| 2 | 議 事 | | | |
| | (1) 挨拶 | 血液対策課長 | 関 英一 | 14:30
(5) |
| | (2) インフルエンザを含む感染症の動向について | | | 14:35 |
| | | 国立感染症研究所感染症情報センター | 多屋 馨子 | (20) |
| | (3) 需要検討会/安定供給対策通知等 | | | 14:55 |
| | | 医薬食品局血液対策課課長補佐 | 佐藤 大作 | (20) |
| | (4) 都道府県アンケート及び予約状況調査 | | | 15:15 |
| | | 医薬食品局血液対策課企画情報係長 | 小林 宏行 | (10) |
| | | 休憩 | 15:25 ~ 15:35 | |
| | (5) ワクチン製造メーカーの取組み予定 | | | 15:35 |
| | | 細菌製剤協会 | 岡 徹也 | (10) |
| | (6) 医療機関に対する流通指導について | | | 15:45 |
| | | 日本医薬品卸業連合会 | 岩崎 恒夫 | (10) |
| | (7) 都道府県の体制づくりについて | | | 15:55 |
| | | 新潟県福祉保健部医薬国保課 | 小林 健 | (10) |
| | | 広島県福祉保健部衛生・被爆者総室薬務室 | 島岡 敏 | (10) |
| 3 | 質疑応答 | | | 16:15
(15) |
| 4 | 閉会 | | | 16:30 |

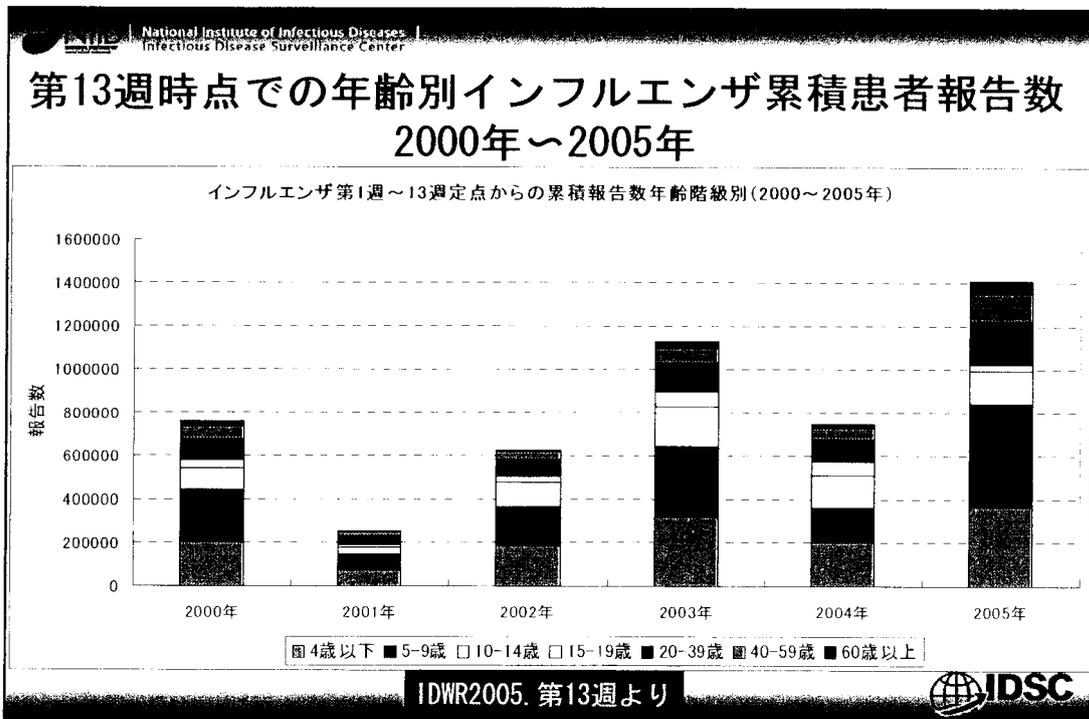
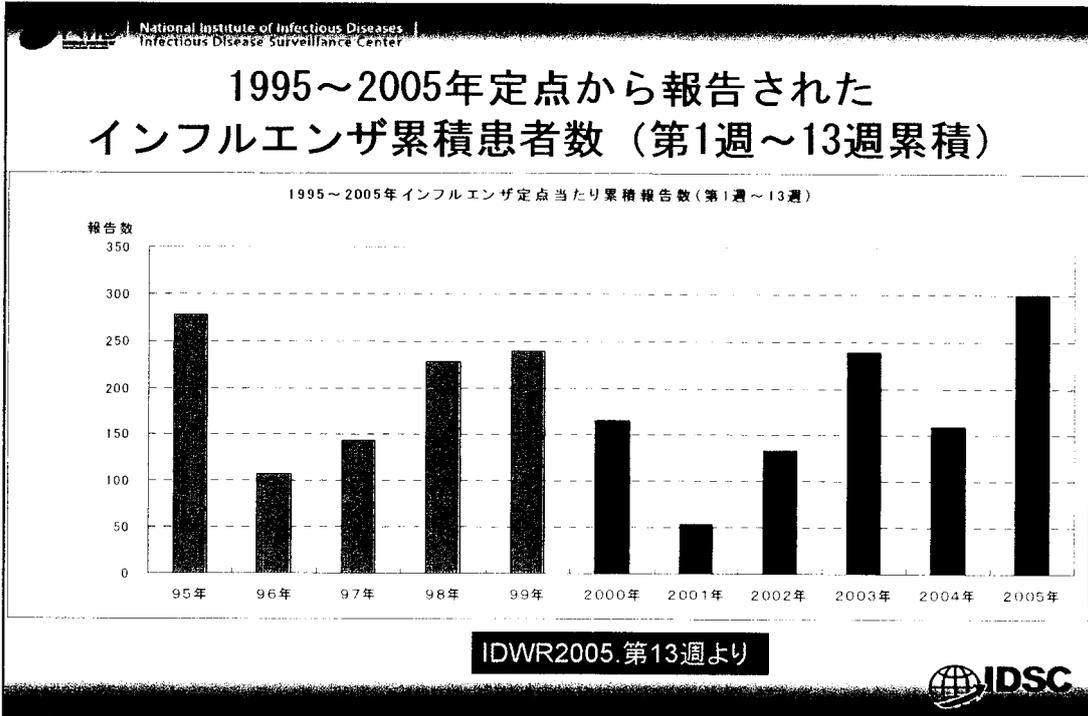
National Institute of Infectious Diseases
Infectious Disease Surveillance Center

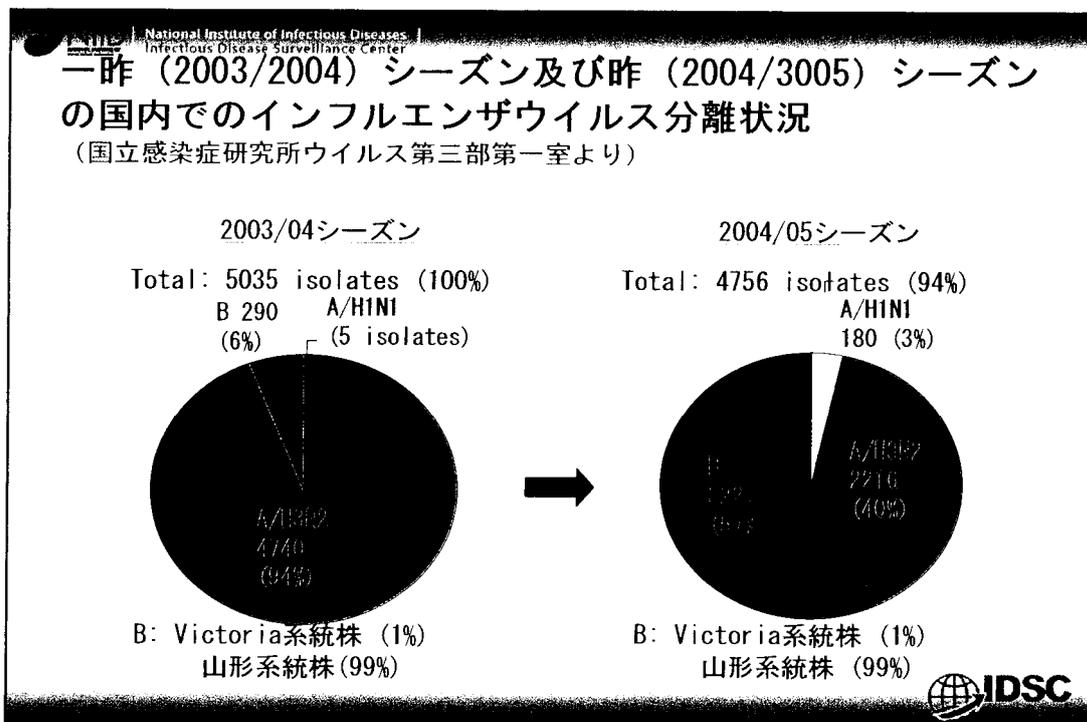
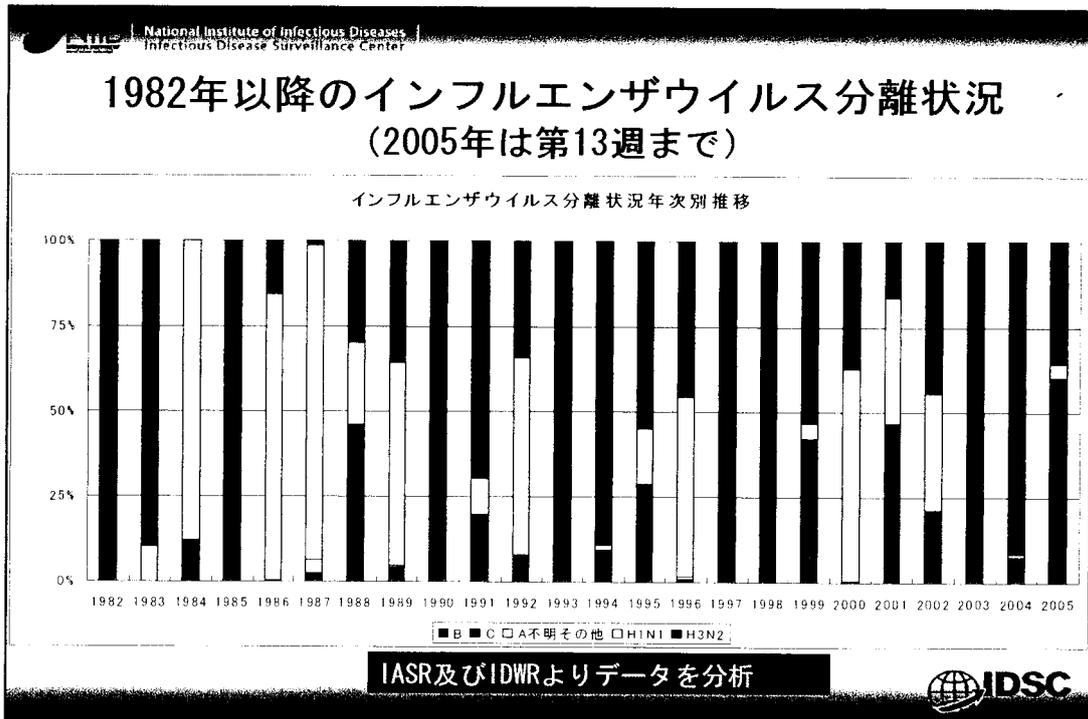
都道府県インフルエンザワクチン担当者会議 インフルエンザの疫学的動向

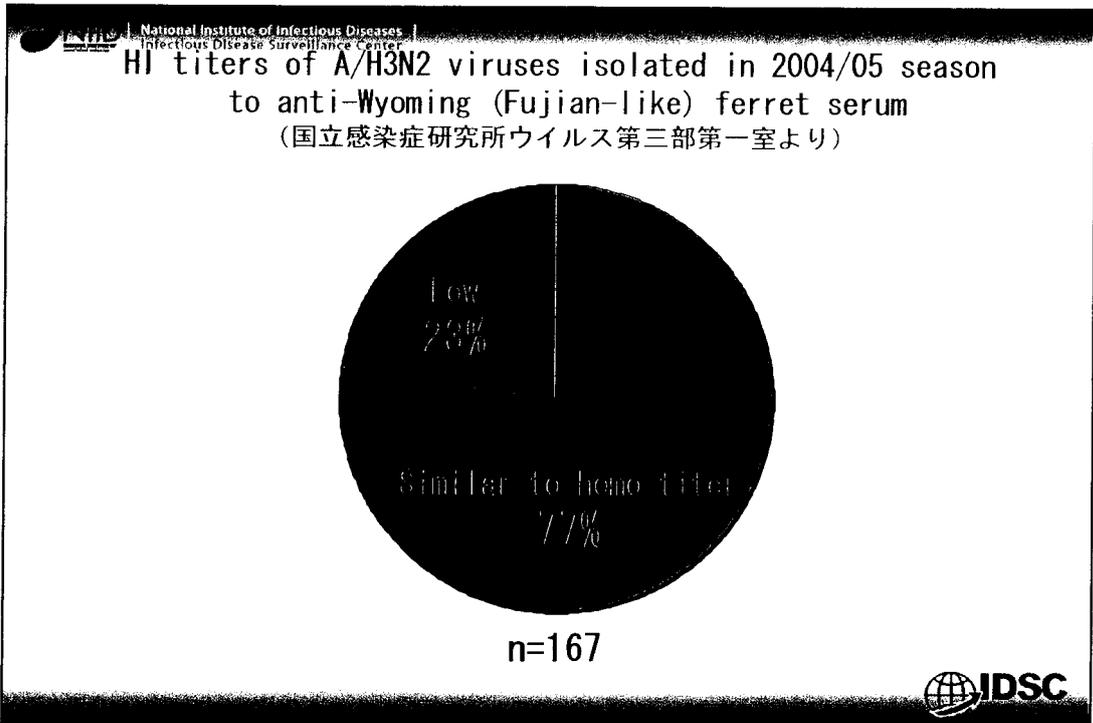
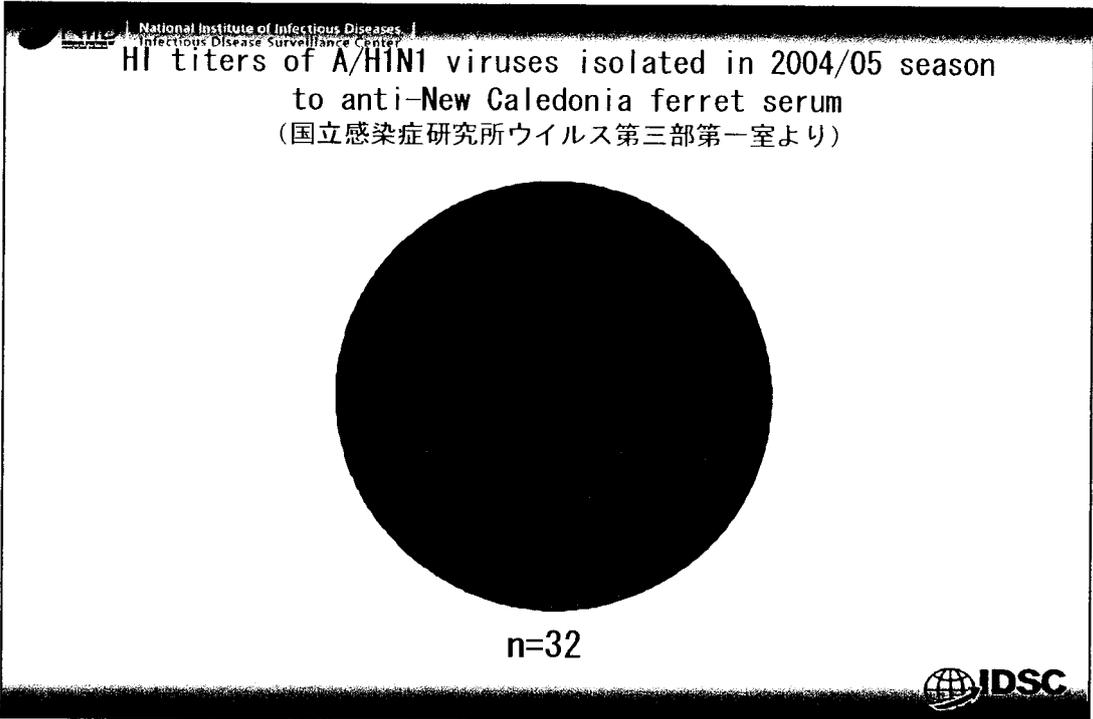
国立感染症研究所 感染症情報センター
多屋馨子、安井良則、岡部信彦
平成17年9月6日(火)
13:35~13:55
中央合同庁舎5号館低層棟2階講堂

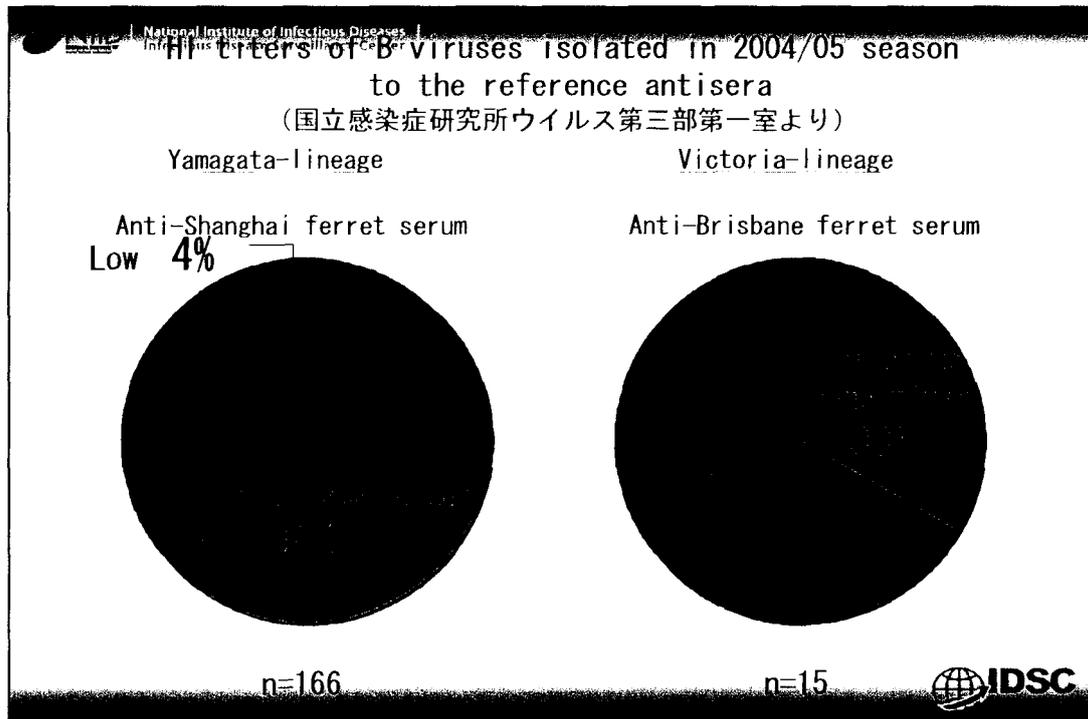
IDSC











National Institute of Infectious Diseases
Infectious Disease Surveillance Center

2005/06シーズン用のインフルエンザワクチン推奨株

Recommended composition of influenza virus vaccines for use in the 2005-2006 influenza season. *Weekly Epidemiological Record*, 25 February 2005を参照。
<http://idsc.nih.go.jp/disease/influenza/vaccinerecommendations.html>

- WHOのインフルエンザリファレンスおよび研究協力センターとリファレンス研究施設における、抗原解析、遺伝子解析、および孵化鶏卵での増殖能に基づき、A/ニューヨーク/55/2004 (A/カリフォルニア/7/2004-様ウイルス) とA/PR/8/34由来の、増殖能の高い遺伝子再集合株が、A(H3N2)ワクチン株として適当である。2004/05シーズン(北半球冬季)のワクチン推奨株は以下のとおりである。
- * A/ニューカレドニア/20/99(H1N1)-様ウイルス
- * A/カリフォルニア/7/2004(H3N2)-様ウイルス*
- * B/上海/361/2002-様ウイルス**

* A/ニューヨーク/55/2004はワクチン株として利用できる
 **現在使われているワクチン株としては、B/上海/361/2002, B/江蘇/10/2003, B/吉林/20/2003 がある。



今（2005/06）シーズンの 国内インフルエンザワクチン株

- A/ニューカレドニア/20/99 (H1N1)
- A/ニューヨーク/55/2004 (H3N2)
- B/上海/361/2002 (山形系統株)



最近のインフルエンザワクチン株

シーズン	ワクチン株
2005/2006	A/ニューカレドニア (ニューカレドニア) /20/99 (H1N1) A/ニューヨーク (ニューヨーク) /55/2004 (H3N2) B/上海 (上海) /361/2002 (山形系統株)
2004/2005	A/ニューカレドニア (ニューカレドニア) /20/99 (H1N1) A/ワイオミング (ワイオミング) /3/2003 (H3N2) B/上海 (上海) /361/2002 (山形系統株)
2003/2004	A/ニューカレドニア (ニューカレドニア) /20/99 (H1N1) A/パナマ (パナマ) /2007/99 (H3N2) B/山東 (山東) /7/97 (Victoria系統株)
2002/2003	A/ニューカレドニア (ニューカレドニア) /20/99 (H1N1) A/パナマ (パナマ) /2007/99 (H3N2) B/山東 (山東) /7/97 (Victoria系統株)
2001/2002	A/ニューカレドニア (ニューカレドニア) /20/99 (H1N1) A/パナマ (パナマ) /2007/99 (H3N2) B/ヨハネスバーグ (ヨハネスバーグ) /5/99 (山形系統株)
2000/2001	A/ニューカレドニア (ニューカレドニア) /20/99 (H1N1) A/パナマ (パナマ) /2007/99 (H3N2) B/山梨 /166/98 (山形系統株)
1999/2000	A/北京 (北京) /262/95 (H1N1) A/シドニー (シドニー) /5/97 (H3N2) B/山東 (山東) /7/97 (Victoria系統株)
1998/1999	A/北京 (北京) /262/95 (H1N1) A/シドニー (シドニー) /5/97 (H3N2) B/三重 /1/93 (山形系統株)
1997/1998	A/北京 (北京) /262/95 (H1N1) A/武漢 (武漢) /359/95 (H3N2) B/三重 /1/93 (山形系統株) B/広東 /05/94 (Victoria系統株)
1996/1997	A/山形 /32/89 (H1N1) A/武漢 (武漢) /359/95 (H3N2) B/三重 /1/93 (山形系統株)
1995/1996	A/山形 /32/89 (H1N1) A/北九州 /159/93 (H3N2) B/三重 /1/93 (山形系統株)



2001～2005年度感染症流行予測調査事業 インフルエンザ感受性調査協力都道府県

- ・北海道
 - ・宮城県
 - ・秋田県
 - ・山形県
 - ・福島県
 - ・茨城県
 - ・栃木県
 - ・群馬県
 - ・埼玉県
 - ・千葉県
 - ・東京都
 - ・神奈川県
 - ・新潟県
 - ・富山県
 - ・福井県
- ・長野県
 - ・山梨県
 - ・静岡県
 - ・愛知県
 - ・三重県
 - ・京都府
 - ・奈良県
 - ・山口県
 - ・愛媛県
 - ・高知県
 - ・佐賀県
 - ・熊本県
 - ・宮崎県
 - ・鹿児島県



流行前の抗体保有率2004年

(感染症流行予測調査事業より)

図1

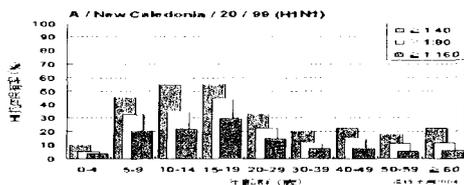
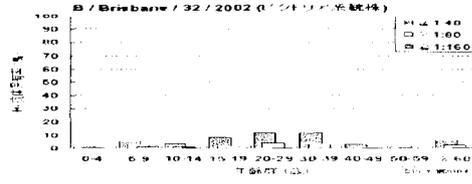
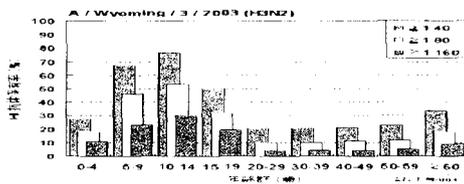
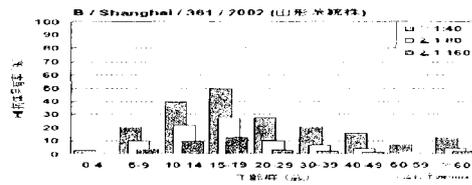


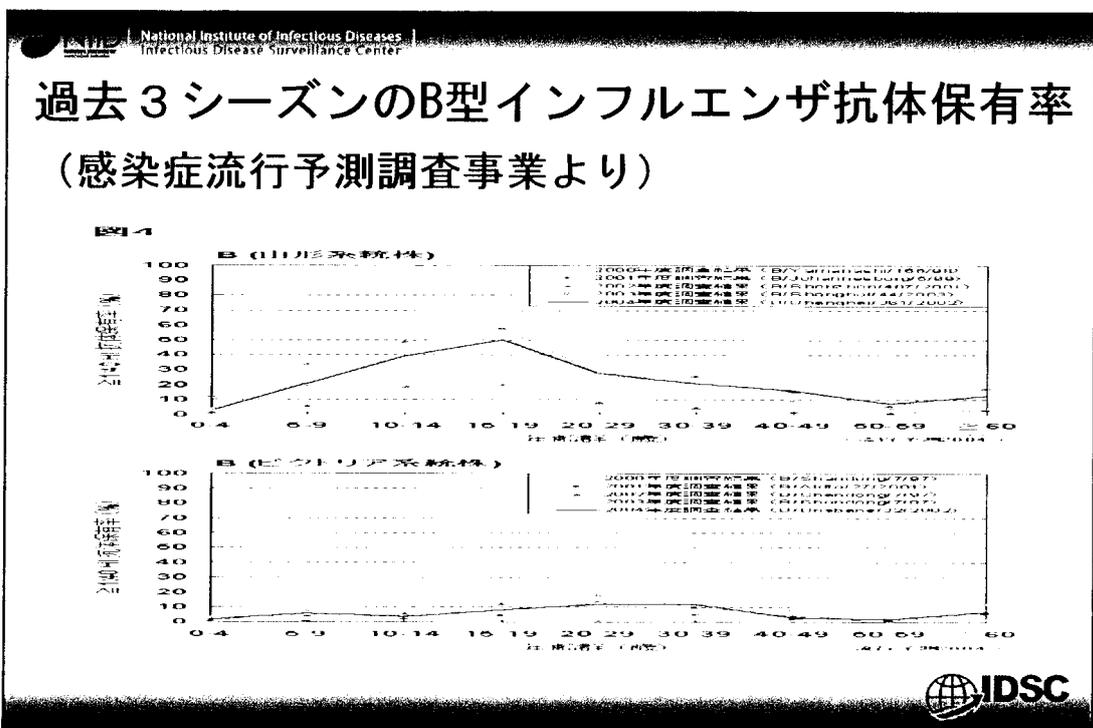
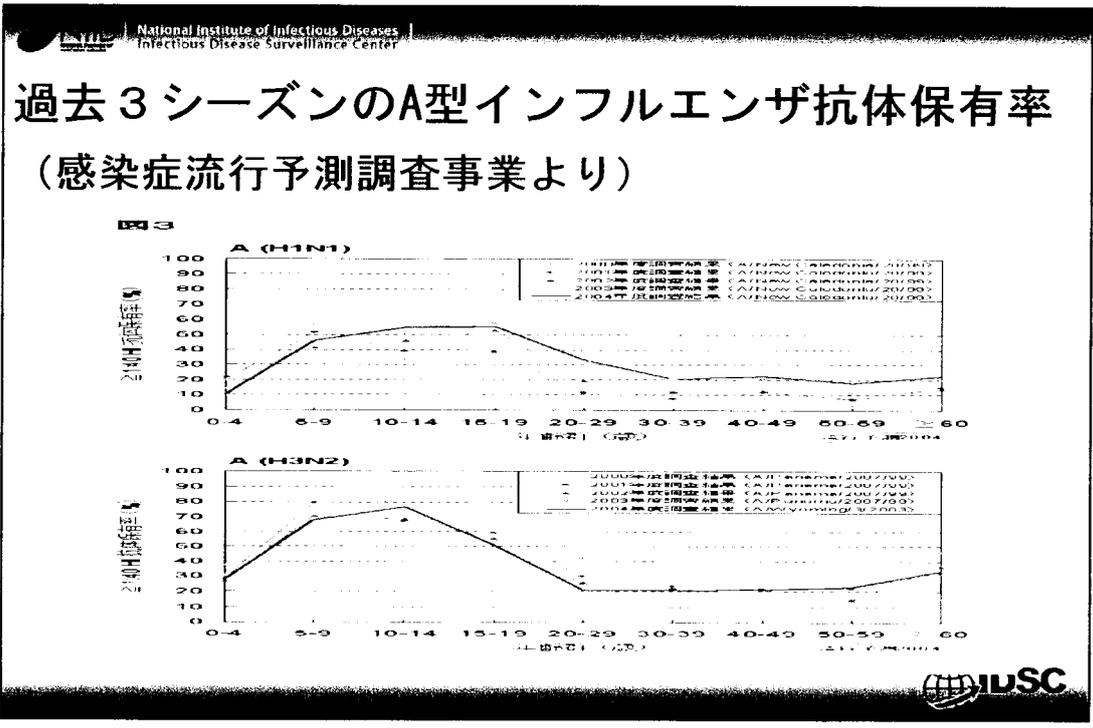
図2



2005年版は11月末頃HPに公開予定です。

是非ご覧下さい。 <http://idsc.nih.go.jp/yosoku/index.html>





インフルエンザ脳症について

インフルエンザの流行期に一致して、5歳未満の乳幼児を中心に（特に1～3歳児が多い）、毎年国内では100～300名の子どもにインフルエンザ脳症の発生がみられている。インフルエンザ脳症はインフルエンザ発症による発熱から神経症状（痙攣、熱せん妄、意識障害など）の出現までが0～1日以内と急速であり、その予後は致命率30%、後遺症出現率25%と不良である（「インフルエンザ脳症」の手引き：厚生労働省インフルエンザ脳症研究班編集）。

【DWR2004第51週注目すべき感染症より】



今シーズンのインフルエンザ脳症発生届例

2004/05シーズンインフルエンザ脳症報告例集（2005年第13週まで）

症例 No.	性	年齢	報告都道府県もしくは 政令市・保健所設置市	発症年月日	インフルエンザタイプ	報告時既死亡
1	男	6	東京都	2004/10/13	インフルエンザA	
2	女	10	新潟県	2004/12/10	タイプ不明	
3	女	2	静岡県	2005/1/20	タイプ不明	死亡
4	女	2	栃木県	2005/2/2	インフルエンザB	
5	男	14	山口県	2005/2/5	インフルエンザB	
6	女	4	大阪府	2005/2/10	インフルエンザA	
7	男	13	大阪市	2005/2/15	タイプ不明	死亡
8	女	2	大阪市	2005/2/18	インフルエンザB	
9	男	5	東京都	2005/2/17	インフルエンザB	
10	男	1	岡山市	2005/2/18	インフルエンザB	
11	男	2	東京都	2005/2/20	インフルエンザB	
12	女	4	新潟県	2005/2/21	インフルエンザB	
13	男	1	大阪市	2005/2/22	インフルエンザB	
14	女	1	新潟市	2005/2/24	インフルエンザB	
15	女	1	大阪市	2005/2/26	インフルエンザB	死亡
16	女	3	東京都	2005/2/26	インフルエンザB	
17	女	8	青森県	2005/2/27	インフルエンザA	
18	女	8	大阪市	2005/2/27	インフルエンザB	死亡
19	男	2	熊本県	2005/2/28	インフルエンザA	
20	女	47	新潟市	2005/2/29	インフルエンザB	
21	女	2	三重県	2005/3/1	インフルエンザB	
22	女	80	京都府	2005/3/3	インフルエンザB	
23	女	4	浜松市	2005/3/6	インフルエンザB	死亡
24	男	8	新潟県	2005/3/8	インフルエンザB	
25	男	1	大阪市	2005/3/9	タイプ不明	
26	男	7	栃木県	2005/3/10	インフルエンザB	
27	女	7	鹿児島県	2005/3/12	インフルエンザB	死亡
28	女	0	山梨県	2005/3/12	インフルエンザB	
29	女	1	奈良県	2005/3/13	インフルエンザB	死亡
30	男	4	姫路市	2005/3/15	インフルエンザB	
31	女	7	東京都	2005/3/16	インフルエンザA	



感染症法に基づく感染症発生動向調査より得られた 2004/05シーズンのインフルエンザ脳症報告例 2005年第13週まで 5類感染症全数把握疾病（急性脳炎）

- ・ インフルエンザウイルスの型別では、A型が5例、B型が22例、型不明が4例であった。
- ・ インフルエンザ脳症の報告は、政令市、保健所設置市も含めて15都府県から報告があった。
- ・ 最多は大阪府（大阪市も含む）からの6件であり、次いで東京都からの5件、新潟県（新潟市を含む）からの5件が多かった。32道県からは報告はなかった。

夏にインフルエンザが流行！！

7/14 (木) の感染症ニュースから ～FETP作成 メディア情報より～

1. インフルエンザ注意報が発令 夏に異例、学級閉鎖5校

県健康増進課は、県内各地で発生しているインフルエンザの患者数が注意報レベルを超えたとして13日、県内全域にインフルエンザ流行注意報を出した。1989年からのデータによると、季節外れの夏場の発令は今回が初めて。患者数も1週間で前週の2倍強に上っており、同日までに学級閉鎖を実施した学校も5校ある。異例の事態に、同課は「一般には冬場の乾燥時期にかかりやすいといわれるが、湿気の多い夏場での発生原因は分かっていない」と話している。

通常のインフルエンザのシーズンは10月から3月だが、今年第27週(7月4日～10日)の各保健所からの患者報告数は前週の291人から361人も増え、652人に。県内58の定点医療機関当たりでも11・24人と注意報レベル(1機関当たり10人)を超えた。

地域別では、中央保健所管内で定点あたり17・87人、南部保健所管内15・64人と流行注意報発令基準を超過。宮古を除いて北部、中部、八重山管内でも前週より患者数が増加している。

県内各地で散発的に発生し始めた6月中旬から7月13日までで、北部、中部の小学校2校、南部の中学校2校、高校1校の計5校で学級を閉鎖。うち高校は現在も学級閉鎖中となっている。

同課は「インフルエンザは感染力も強い。これ以上流行しないように、うがい、手洗いはもちろん、人込みへの外出は避けた方がいい」とし、38度以上の高熱や筋肉痛などの症状を感じた場合は早めに受診するよう呼び掛けている。(琉球新報) - 7月14日9時15分更新

<http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20050714-00000001-ryu-okj>



感染症週報より 注目すべき感染症第27号ダイジェスト2005年第27週(7月4～10日)

<http://idsc.nih.go.jp/idwr/douko/2005d/27douko.html>

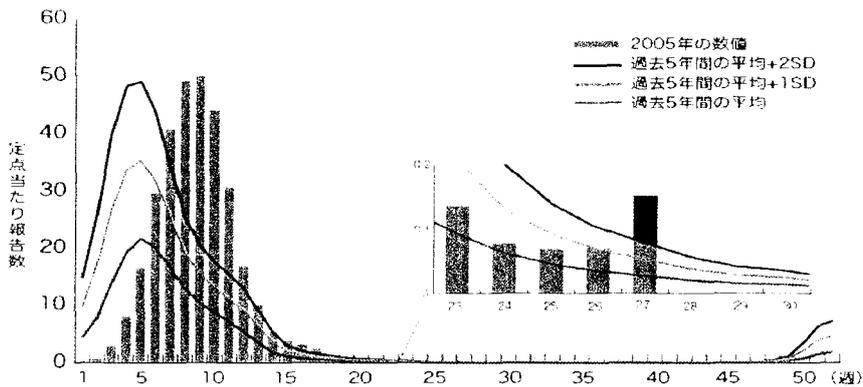


図. インフルエンザの発生状況

2005年の値を棒グラフで、過去5年間の平均(前週、当該週、後週の合計15週の平均)およびその標準偏差(+1SD、+2SD)を折れ線グラフで示した。



感染症週報より 注目すべき感染症第28号ダイジェスト2005年第28週（7月11日～17日）
<http://idsc.nih.go.jp/idwr/douko/2005d/IMG28/chumoku02.gif>

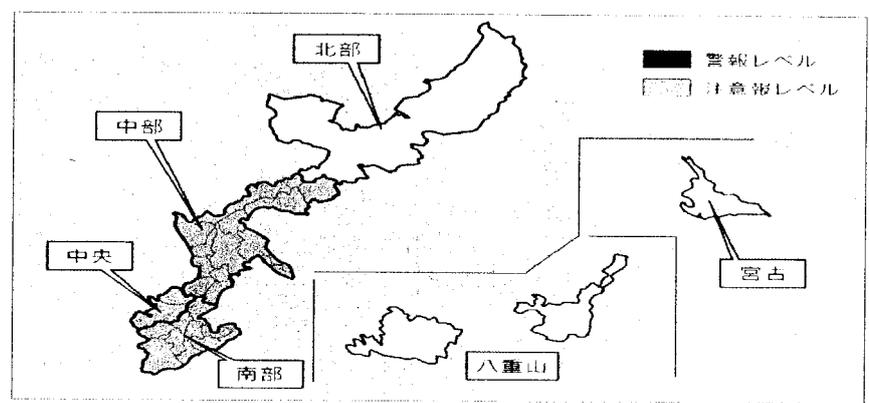


図2. 沖縄県の各保健所管内とインフルエンザ注意報発令地域
 インフルエンザ注意報は定点当たり報告数が100を超えたとき、警戒は300を超えたときに発令される。



感染症週報より 注目すべき感染症第29号ダイジェスト2005年第29週（7月18～24日）
<http://idsc.nih.go.jp/idwr/douko/2005d/IMG29/chumoku01.gif>

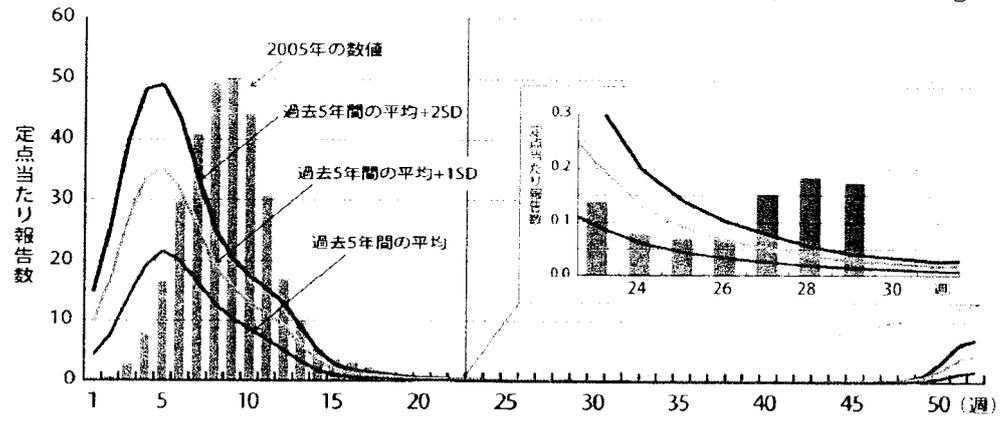


図. インフルエンザの発生状況

2005年の値を棒グラフで、過去5年間の平均(前週、当該週、後週の合計15週の平均)およびその標準偏差(+1SD、+2SD)を折れ線グラフで示した。



